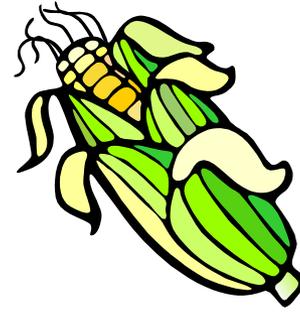


飼料安全の観点からの手続について

農林水産省 消費・安全局
畜水産安全管理課

飼料に使われる作物

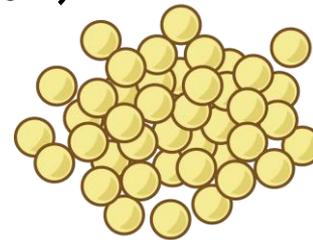
- ・とうもろこし
- ・小麦
- ・アルファルファ（牧草）
- ・稲（稲わら、飼料用米、米ぬか）
- ・大豆（大豆油かす）
- ・なたね（なたね油かす）
- ・綿（綿実、綿実油かす）
- ・甜菜（ビートパルプ）



とうもろこし



綿実

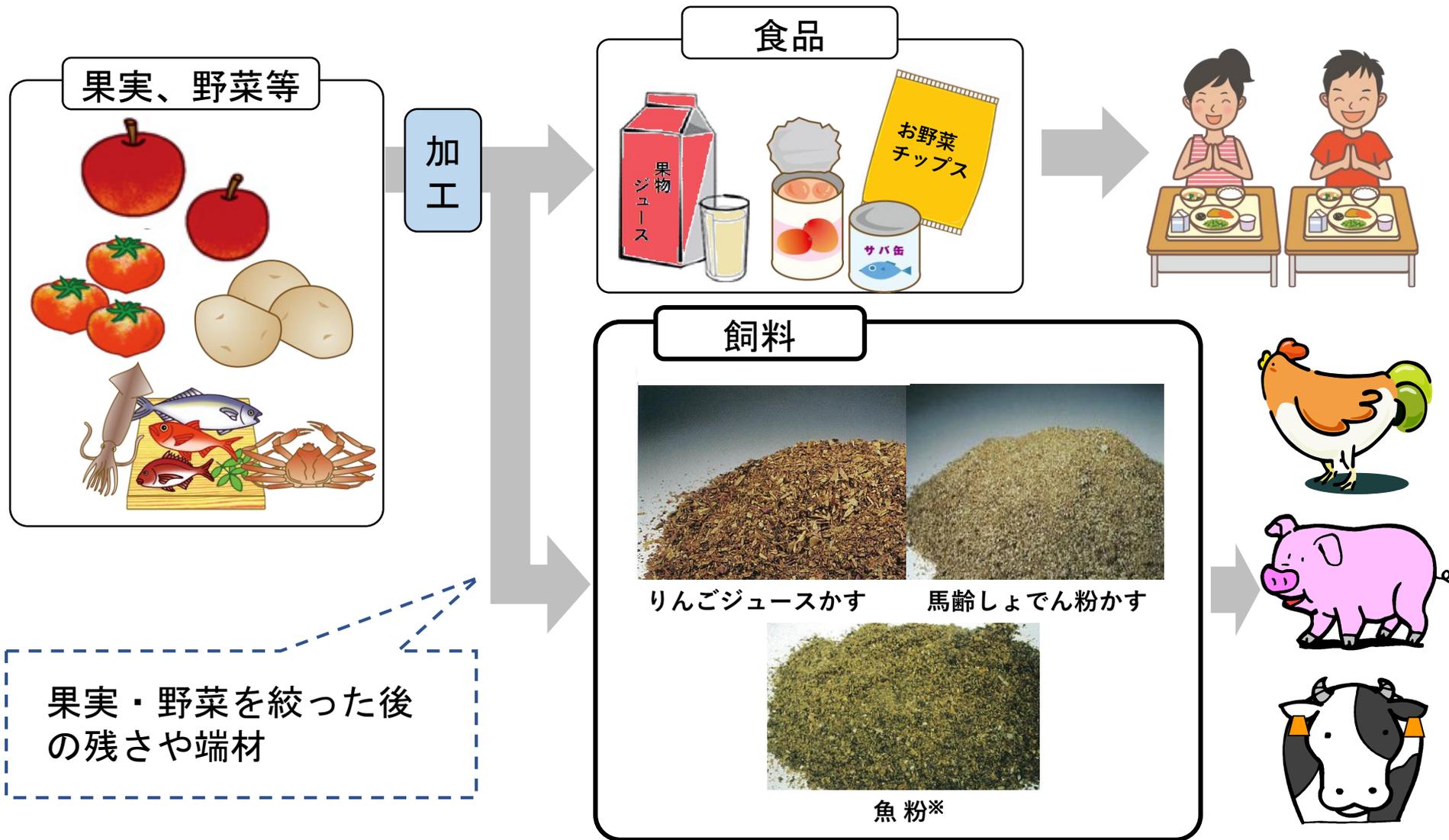


配合飼料



サイレージ

加工食品の残さを活用した飼料の例

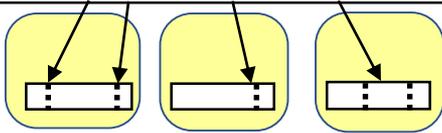


※ 魚粉（動物に由来するたん白質）は、飼料安全法の規定により牛への給与が禁止

ゲノム編集技術を利用した飼料の取扱い

従来の突然変異による育種技術

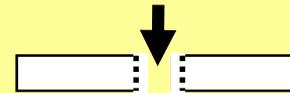
太陽光の紫外線などにより、
不規則に切断される
(どこが切断されるかわからない)



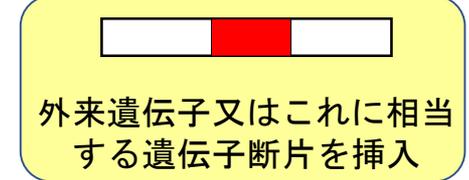
手続なし

ゲノム編集技術

狙った場所を切断

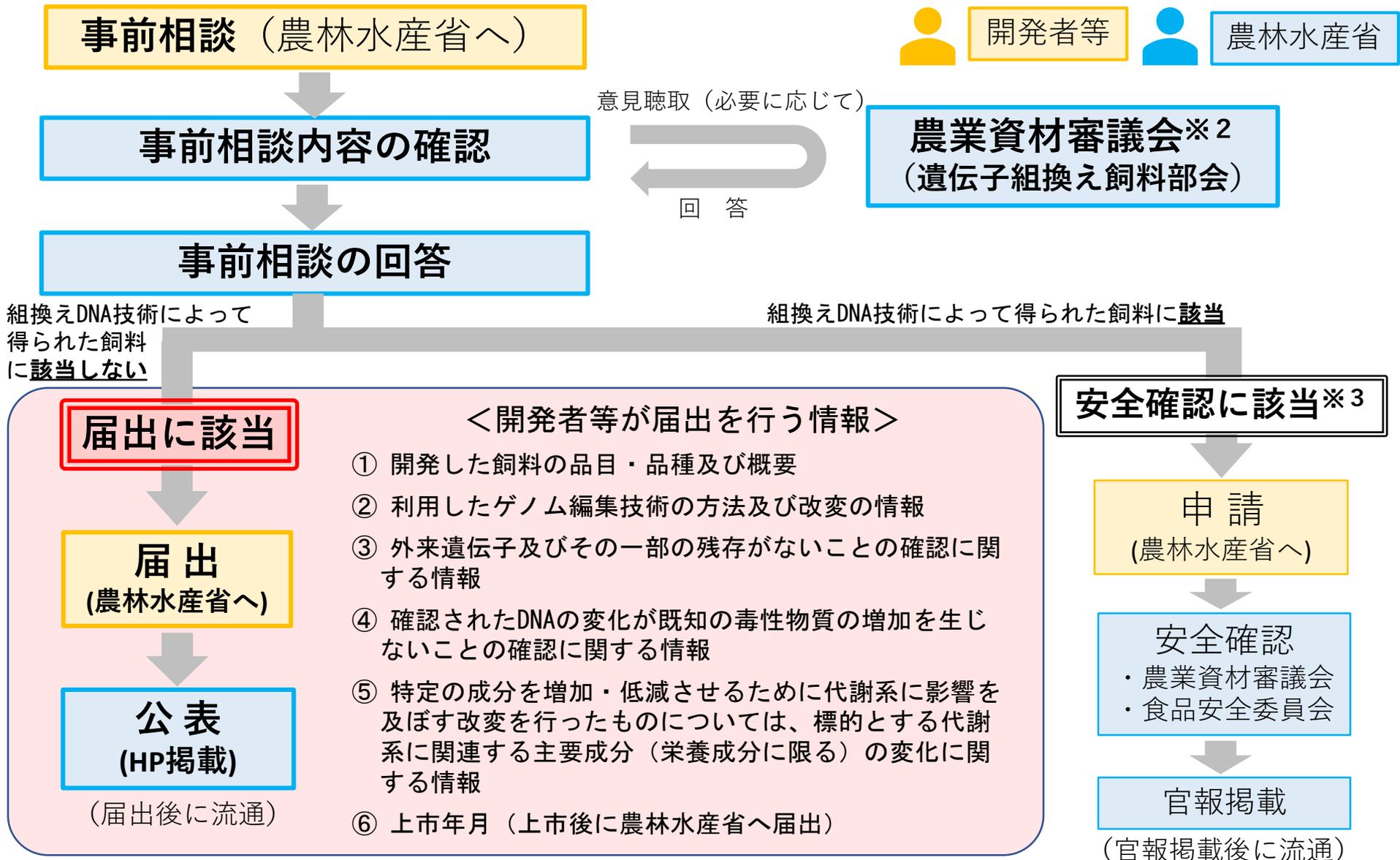


届出・公表



安全確認・公表
〔組換えDNA技術に該当〕

ゲノム編集飼料の取扱いに係る流れ※1



※1 ゲノム編集飼料等の飼料安全上の取扱いについて（令和2年2月7日付け農林水産省消費・安全局長通知）

2 食品安全委員会の意見聴取が必要と判断された場合は、農林水産省が食品安全委員会に諮問

3 組換えDNA技術によって得られた飼料・飼料添加物として、飼料安全法の省令・告示を準用（一部の飼料添加物は、安全確認とは別の手続）

飼料安全の観点からの手続について

- ・ 食用で流通するものであっても、加工食品の残さなどが、飼料として利用される可能性があります。
- ・ このため、ゲノム編集技術を利用して得られた食品の流通を検討する場合は、飼料利用についても農林水産省（畜水産安全管理課）に御相談ください。

